



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590 / CHARTERED MAY 29, 1976 / WEEKLY BULLETIN



クラブテーマ 更なる奉仕を地域と共に

2008-2009年度 **第18号週報 No.1577**

2008年(平成20年)11月7日 第1577回例会記録 11月14日発行

2008-2009年度RI会長

李 東建



夢をかたちに

2008-2009年度 清水 良夫
第2590地区ガバナー

会 長	犬飼 和春	会長エレクト	河野 明光
副 会 長	横山 範夫	副 会 長	梅崎 興生
幹 事	古川陽太郎	副 幹 事	山田 正憲
会 計	館野 典久	副 会 計	朝日 達夫
S A A	布施 是清	副 S A A	飯田 泰之
クラブ会報	角田 伯雄	副 S A A	月山 勇(PP)

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3 TEL:045(314)3900 FAX:045(314)3555

例会日 毎週金曜日0:30~1:30PM

例会場 ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和51年5月29日

URL <http://www.kanagawahigashi.com/> **E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

司 会 山田 正憲 副幹事

点 鐘 犬飼 和春 会長

斉 唱 君が代・奉仕の理想

四つのテスト 川邊 正男 職業奉仕委員長

ゲスト紹介

- 張 蕾 様 (ゲスト・スピーカー)
- 鈴木 憲治 様 (2008-09年度 第2590地区
米山奨学委員会 委員長)
- 田 鎬鎮 様 (米山学友会 理事)
- 大森 博 様 (張さんに沢山の本を送った方)
- 張 穎 様 (張さんの大連の大学の教え子で
日本に留学中)
- 于 文秀 様 (張さんの大連の大学の教え子で
日本に留学中)
- 王 微 様 (張さんの大連の大学の教え子で
日本に留学中)
- Abbey Moore 様 (2008-09年度 青少年交換学生)
- 周 鋒 様 (2008-09年度 米山奨学生)
- 中山 久招 様

ビジター紹介

横浜西R.C 金子 隆一 君

誕生日祝

- 芦沢 康大 会員 (11月10日)
- 布施 是清 会員 (11月13日)



入会記念日祝

- 大西 弘文 会員 (第18期 1993年11月5日入会)
- 山田 富雄 会員 (第17期 1992年11月6日入会)
- 山本 登 会員 (第17期 1992年11月6日入会)

本日《11月14日》のプログラム

- ◆齊 唱 「我等の生業」
- ◆献 立 尾長鯛のポワレ
- ◆卓 話 「イニシエーションスピーチ」

尾崎 春人 会員



会長報告

ルーヤン R.C への青少年派遣に関するアンケート集計報告
ブラジルへ派遣中の2008-09年度 国際青少年交換学生 宮田莉佳
さんよりマンスリーレポートが届いておりますので紹介します。

幹事報告

2008-09年度受入学生近況報告会および意見交換会の報告
本日、例会終了後クラブフォーラムがございます。大勢の出席を
お願い致します。場所 5F ジュピリー
明日、地区大会がございます。万障お繰り合わせの上出席の程よ
ろしくお願いします。場所 パシフィコ横浜会議センター
登録開始 12時 点鐘 13時
また、地区からの連絡事項ですが、地区大会本会議においてのク
ラブ紹介の際にクラブ毎に出席者が起立をする方式をとるそうデ
す。よろしくお願い致します。
次週、例会終了後、11月度定例理事会がございます。

委員会報告

雑誌委員会 委員長 橋本 直生

雑誌委員会よりロータリーの友11月号のご紹介をさせていただきます。

今月は、ロータリー財団月間です。

横組みではロータリー財団の活動や寄付金の行方など詳しく説明
されています。

ロータリー財団と言いますと「分かりにくい」という印象があり、
例えば資金の流れが見えない、資料が翻訳文なので日本語が難しく
分かりづらい、また寄付金を払わなくてはという集められているよ
うな義務感を持っておられるロータリアンも多いのではないかと
思います。

また、今までは税制上の優遇措置が十分でないこともあり、米山
記念奨学金と比べ寄付金や財団についての理解が今一つという印象
があります。

今年12月1日施行の「公益財団法」に合わせてロータリー日本財
団は新しく公益財団法人の設立を目指し、来年の7月1日から米山
記念奨学金と同じような税制上の優遇措置が得られることを目指し
ているそうです。今月の「友」を読み、私達の1人\$140の寄付金
が結集すればロータリー財団を通して世界の子ども達や、世界の中
で困っている地域や人々に手を差し伸べることができるということ

を感じました。

ロータリー財団に関する疑問の答えが、今月号に出ています。

是非、会員皆様にご一読いただき、ロータリー財団を知り、理
解を深めていただければと思います。

出席報告

上阪 哲也 委員長

会員総数	65名	(52+13)名	
出席会員数	51名	(40+11)名	
出席率	80.95%		
ゲスト	10名	ビジター	1名
前回補正後	83.61%	前々回補正後	95.08%

スマイルボックス

布施 是清 SAA

鈴木憲治君 ホームカミング制度で来日の張蕾さんの卓話にお邪魔
致しました。

田 鎬鎮君 先日米山学友会会報「学友浜崎 (ガクユウハマサキ)」
発行に際し、皆様の多大なご支援心よりご感謝申し上げます。

金子隆一君 メーキャップにまいりました。よろしくお願ひ致します。

犬飼和春君 本日は米山ホームカミングの張蕾さんに関係するお
客様を多数お迎えしております。 入会希望者の中山久招様をお連
れ致しました。よろしくお願ひ致します。

岩澤利雄君 張蕾さんご苦労様です。卓話楽しみです。古川先生、
永井さん、河野さんいろいろお世話になってありがとうございます。

永井隆俊君 張蕾女史、毎日卓話ご苦労様です。でもまだ明日の
地区大会での挨拶がありますよ。 鈴木地区米山奨学委員長 連日
張蕾女史の応援ありがとうございます。

横山範夫君 地区米山奨学委員長 鈴木様ようこそ。張蕾さんが
大変お世話になり誠にありがとうございます。 張蕾さん卓話楽
しみにしています。

伊東英紀君 張蕾さんようこそ。卓話楽しみにしています。

須永隆俊君 中山久招さん、ようこそお越し下さいました。お仲間
になる日、楽しみにしております。

大西弘文君 入会記念日を祝ってもらい、ありがとうございます。
今年度より結婚記念がなくなり、結婚した日を忘れてしまいました。
あゝ情けない。

山田富雄君 入会祝いありがとうございます。今後もよろしくお
願ひ致します。

山本 登君 入会記念日祝いありがとうございます。時間がないと
のことなのであまり喋りません。

横溝 亘君 本日仕事の都合で早退させていただきます。張蕾様本
日の卓話よろしくお願ひ致します。

川邊正男君 昨日のゴルフ研修会出席の皆様お疲れ様でした。河野
さん大変お世話になりました。

江森国一君 張さん、田さん、周さん、アビーさん、皆様ようこそ。

茂木知子君 犬飼先生、楽しい企画ありがとうございました。とこ
ろで、犬飼先生の得意料理は何でしょうか。歯医者さんなので得意
料理は詰物です。

11月7日	16件	43,000円
本年度累計額		954,212円

「日本で学んだことを糧に」

米山学友 張 蕾 様



ただいま、ご紹介にあずかりました米山学友の張蕾でございます。この度は、ロータリー米山記念奨学会のホームカミング制度と、皆様のご支援ご尽力をもちまして、来日する機会を得ましたこと、そして皆様方にお目にかかり、こうしてお話する機会をいただいたことに、まずお礼を申し上げたいと思います。

私は1991年に廈門大学を卒業した後、日本との合併企業に通訳として3年ぐらい就職しましたが、日本文学が大好きで、とくに芥川龍之介の文学が好きで、将来日本文学の教師になりたいと日本留学を思い立ち、1994年来日しました。そして2003年まで、ほぼ10年間にわたり早稲田大学、東京学芸大学、鶴見大学などで、日本近代文学研究に取り組みました。特に、鶴見大学大学院の博士課程に在学中の3年間は、神奈川東ロータリークラブのお世話で、「米山記念奨学金」と「クラブ支援米山記念奨学金」をいただき、クラブの皆様の公私に渡る長い温かいご支援と激励のお陰をもちまして、念願の日本文学博士号をいただくことが出来ました。目的を達成した後、日本に残って就職する道もあったのですが、「初心忘るべからず」と、帰国して母校アモイ大学の日本語学部の教師となり、現在は、日本とも歴史的な関係が深く、中国における日本企業の拠点の一つとして発展する遼寧省大連市の大連海事大学の日本語学部において、日本語と日本文学を教えております。

神奈川東ロータリークラブの皆様には、私の帰国後も多くの日本文学の書籍などを大学に寄贈していただいたり、2007年に博士論文を上梓させていただいた折には、クラブの皆様にご多大なご協力をいただいたりするなど、引き続きご支援・ご鞭撻をいただき、今日に至っております。今日の私が念願の日本語教師として中国の学生に、日本語や日本文学、日本の素晴らしさ、日本人の姿を伝え、中日友好のささやかな礎となるのが出来たのも、ロータリークラブの皆様の温かいご支援があったからこそと、深く感謝申し上げます。しかし、ロータリーの皆様からいただいたのは物心両面にわたるご支援ばかりではありません。毎月1回参加を許されたクラブの例会における各業界の素晴らしい方々の卓話や、ロータリーの様々なイベントに参加させていただくことによって、ロータリーの仕事の内容やその奉仕の精神を身に染みる程理解することが出来ました。ロータリーの皆様は不況の中、自分のポケットマネーを出し、縁もゆかりもない外国人留学生を援助し続けています。ロータリーの奉仕活動は出会い、触れ合い、助け合いから 親睦と奉仕 という哲

学は私の心に深い感銘を覚えていました。ロータリーが私に人間同士というのは狭い自分の地域だけではなく、もっと世界的な視野で助け合うものなのだという、地球規模での人間に対する思いの深さと理想の高さを教えていただきました。ほぼ10年間の留学生活において沢山の親切で優しい日本の方々と接しましたが、私にとって最も貴重な経験といえば、やはり米山奨学生に選ばれて、ロータリアンの方々とお会いしたことです。これは私の一生忘れることの出来ない、かけがえない経験です。皆様から学んだ「奉仕の精神」は、私の心に大きな糧となって今も脈々と息づいています。

中国革命の父、孫文が「中国人は一握りのパラバラの砂である」と嘆いたように、中国人は個人主義的な傾向が強く、「自分の利益にならなければ、公のために一毛たりとも抜かない」という利己主義的傾向は、改革開放以来ますますその傾向を強めております。私は単に言葉としての日本語、道具としての日本語を教えるのではなく、日本のお互い様、お陰様の心、ロータリーの「奉仕の精神」など、日本で学んだ日本の美しい心や、ロータリー精神を中国の次代を担う一人でも多くの若者に伝えることが出来たらと念願し、それが皆様からいただいたご支援とご鞭撻に報いる私なりのご恩返しと日々微力を注いでおります。

中国と日本は一衣帯水の隣国として善隣友好の歴史を築いてまいりました。21世紀はアジアの時代、共存共栄の時代と言われております。中国と日本はいわゆる「漢字文化圏」に属しております。両国は、文化の根幹である文字の共通性によって、様々な文化的共通性を有しております。しかし、地域的・国民的・民族的違いは顕著なものがあります。単一民族に近い日本と違って、中国では全体の9割と漢民族が圧倒的に多いものの、実に55もの少数民族が独自の言語・習俗を維持して共存しております。国土にしても日本の26倍もの広さがあります。これだけの国土と人口を統括・維持するには、強大な権力と統治機構が必要でありました。また、同じ中国でも南と北とは全く風俗習慣が異なります。寒冷で乾燥地帯である北中国では、畑作が中心で、小麦食をよく食べます。長江以南の温暖・温潤な南中国では、水田稲作が中心で、日本と同じようにお米が主食です。日本文化の古層は、どうやら中国南部から渡来した少数民族に依拠するという説がありますが、現に南西にある雲南省などの少数民族の中には、日本人と同じような農耕儀礼や納豆などの発酵食文化を維持しているものがみられます。

宗教面でも、北では礼と仁を重んじる儒学が、南では自然と自由を尊ぶ道教が発達しました。そして公的には儒学が、私的には道教が中国人の生活に取り入れられてきました。北方で礼や仁を説く儒学が盛んになったということは、裏返せば北方ではそうした礼や仁を強調しなければならない程、協調性のない社会であったことの反映なのかもしれません。

私は夏休みを利用して南中国を訪れることがありますが、何となく日本的な雰囲気を感じることがあります。それは単に気候風土が似ているだけではなく、風俗習慣も多くの共通点があるのが原因ではないかと思っています。今年の夏休みも湖南省の西部、貴州省の省境に近い鳳凰鎮という古い街を訪ね、その近郊にあるミャオ族の村を訪ねる機会がありました。ミャオは苗(なえ)という字を書きますが、文字通り稲作や焼き畑を行っている農耕民族です。ミャオ族は苗寨と呼ばれる集落に住んでいます。その苗寨は人跡未踏の天然の要害のようなところにあり、船に乗り、険しい崖や谷を何度か上り下りして、ようやく辿り着くような所にありました。

船着き場には子ども達が崖から飛び込みをしたり、泳いだり、豊

かな自然の中でのびのびと遊んでおり、街中の子ども達とは違って、生き生きとした輝く瞳を持った健康そのもの子ども達でした。何度も谷を登ったり下ったりすると、やがて豊かに実った水田が見え、その高台に苗塞が見えました。苗塞の入口には、村人が待ちかまえ、歓迎の酒を飲まされます。これは客人を村に迎え入れるミャオ族独特の儀式です。苗塞の中を散策していると藍染めの民族衣装を着た二人のお婆さんに出会いました。写真を撮らせて下さいと頼んだのがきっかけで、そのうちの一人のお婆さんが自分の家に案内してくれました。そしてミャオ族の民族衣装を私に着せてくれたり、家の中を案内してくれるなど、とても親切にしてくれたのです。漢民族ではそうした通りすがりの知らない人を自分の家に招いたりすることはほとんどありません。私は思わず日本で受けた様々な人の親切を思い出しました。

しばらくするとその老婆の孫娘が帰ってきました。持参したカメラと一緒に記念撮影をして、それを送るから住所を書いてほしいと紙を渡すと、老婆も10歳程の孫娘も字が書けないということでした。話しによれば、その老婆の息子はその村の村長をしているそうですが、村長の娘でさえ、学校には行っていないようなのです。私は愕然としました。都市と農村、沿岸部と内陸部の格差は知っていましたが、老婆はともかく、孫娘が文盲というのは大きなショックでした。

中国では国の政策として都市住民と農村住民を区別し、農民が都市に安住したりすることを禁じています。そして農村住民は都市住民のように改革開放経済の恩恵を受けることが少なく、社会保障面でも不利な立場に置かれています。農村と都市の格差は近年ますますその差を広げ、中国は国内に植民地を持っているかのように見えます。農村の出稼ぎ労働者を安い賃金で働かせ、ろくな保証もせずに使捨てにして、沿岸部の発展がなされているのだということを実感しました。私は学生時代からの日本文化の学習や10年あまりの日本での留学生活ですっかり日本的な感覚になってしまい、帰国して現在に至るまで、中国の習慣や制度に違和感を感じています。日本でごく普通の、見ず知らずの人への親切や思いやり、気遣いなどは、中国ではほとんど目にするがありません。日本ですっかり身についた電車やバスに乗る際の、降りる人優先の乗降や整列乗車は、ほとんど見ることは出来ません。若者が老人や子ども、女性を押しつけて席に座ろうとするのは日常茶飯事のことです。

ましてや私が支援いただいたような金銭的支援や精神的援助など、見返りを求めない支援や援助は基本的には存在しません。中国では関係、つまりコネクション、縁故が全てです。自分を中心に関係のある人と無い人とでは対応がまったく違うのです。自分を中心にいくつもの同心円があって、その枠の中と外とでは全く違う基準で動くのです。中国人はその輪からはみ出している人にはとても冷たいのです。死にかけている人を前に治療代を要求し、お金を持っていないと分かると治療を拒否する医者がありました。この医者は別に倫理水準が低いわけではないのです。この医者が冷たかったのは、その患者がその「輪」からはみ出していたからです。もし医者と患者が、同じ「輪」の中に入っていれば、医者は患者にすぐさま十分な治療を施したでしょうし、今お金が無いのなら、ある時に払えばいいですよと言ったはず。このように振る舞うのが中国の規範なのです。端的に言えば中国人は全て「ギブ・アンド・テイク」を原則にしており、しかも、この原則も「輪」の中の人と外の人との間では成立しないのです。

日本には「渡る世間に鬼はない」とか、「情けは人のためならず」とかいう諺があります。とにかく私が日本人たちから受けた親切や支援、激励・協力は、日本のお陰様、お互い様、「袖振り合うも他生の縁」という縁もゆかりもない人への人情、もてなしの心は、中国で育った私に大きな影響と衝撃を与えました。それまで小説や

映画、テレビドラマなどで知っていた日本とは別の、生身の人間から直接受けた親切や真心を肌で感じ、体験したからです。特にロータリーの皆さんからいただいた温かいご支援、ご協力、ご理解は、私の留学生活と勉学にとって、物心ともに大きな支えとなり、励ましとなりました。そして皆さんのお仕事や日常生活、ロータリーの活動を通じて拝見した「奉仕の理想」「奉仕の精神」を具体化し、地域社会への働きかける真摯な姿は、私の心に大きな感動と感銘を与えました。

今、中国に足りないのは官民ともに「奉仕の理想」「奉仕の精神」です。誰もが自分のためにしか仕事をしません。ロータリアンや日本で少なからず体験した人のため、公のための「奉仕」という觀念が、「自分の利益にならなければ、公のために一毛たりとも抜かない」という利己主義を基本的行動様式とする中国には存在しないのです。これが日本人と中国人の根本的で重要な決定的な違いです。

私が大学で教えている中国の若者たちは、生まれた時にはすでに■小平による「改革開放」路線が軌道に乗り、中国が「世界の工場」とまで呼ばれる程経済成長し、豊かな消費社会になってから物心ついた人達です。しかも一人っ子政策により、両親に祖父母をはじめとする一族の期待と寵愛を一身に受け、男子は「小皇帝」女子は「小公主」と呼ばれる世代です。彼らは両親と、父方・母方それぞれの祖父・祖母の俗に言う「6つのポケット」から資金と愛情を受けており、また物も豊富にある環境の中で育ったため、自分の好きな物を集め、自分がそれらを与えられる特別な存在だということをごく自然に受け入れて成長してきました。そのため、わがままで依頼心が強く、忍耐力が無いなど、性格的にも大きな問題を抱えています。

また、インターネットや携帯が普及したいわゆるデジタル時代の彼らは、コピー・ペーストで安直にレポートや論文を書いたり、本を読まず、こつこつ真面目に基礎的な努力を嫌がるなど、学問の姿勢にも問題があります。そして上昇志向が強い彼らは、誰もが大企業への就職を希望し、自分はそれにふさわしい努力をせずに、高収入を得ることばかりを望んでいます。前にもお話ししましたように、これまでも中国人には「奉仕の精神」や、見ず知らずの人に親切にしたりする公德心の欠如が問題でしたが、これからこうした世代が社会の中心になっていけば、より一層その傾向がひどくなることは目に見えています。

私は単に意志伝達の手段としての日本語を教えるだけでなく、日本留学中に皆様から学んだ「奉仕の精神」や他人への親切・援助、助け合いの心などを、一人でも多くの若者に伝えていきたいと日々努力しています。また、日本や日本人、日本文化の素晴らしさや特徴、学ぶべき点について、授業や課外活動、雑誌連載などを通じて、学内や学外を問わず、広く発信していきたいと思えます。現実主義的傾向が強い中国人は、即効的な目先の利益ばかりに心を奪われる傾向があります。そのため、環境汚染や環境破壊などが、大きな社会問題となっています。彼らに日本人の自然に親しみ、自然を愛し、環境を守るために地道な努力をしていることを紹介し、それを学ぶべきこと、次の世代のためにそれを伝えていかなければならないと教えていこうと思えます。

そして、そのことを通じて「人道的な活動を広げ、世界理解と平和を推進する」というロータリークラブの「国際奉仕」の一端を担うことが出来れば、素晴らしいと思えます。また、それが皆様からいただいたご支援に対する私なりのご恩返しであり、「奉仕の精神」であると信じています。

これからも引き続き皆様方の温かいご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。私の拙いご報告を終わらせていただきたいと思います。ご静聴、ありがとうございます。

張蕾さん来日歓迎会



ことが出来ればと考えることも度々ありました。

しかし、まさかその矛先が自分に向けられるとは夢にも思ったことなどありません。まさに晴天の霹靂ではありますが、同時に「青柳だったら...」「クラブを挙げて支援するぞ...」との励ましの言葉は日頃鈍感な私でも深く感銘を受けました。

私が神奈川東ロータリークラブに入会した当初、明治、大正生まれの先達はロータリー活動には大変厳しく入会間も無い私などはいつ退会しようかと毎日考えておりました。そうした中で、先達から多岐に亘り学ぶことも出来ました。ビジネスに関するのアドバイスや時には遊びに関しあれこれと教を乞う内にいつの間にかロータリー活動が好きになっていく自分に気がきました。

それはロータリーが好きになったと言うより、そこに集う異業種の仲間の魅力に段々と引き寄せられたのだと思います。

ご存知の通り、当クラブは33年前に数人の熱き思いを抱く先達により、神奈川クラブから拡大し誕生したクラブであります。

その熱い思いとは、クラブは特権階級的な意識を持つ会員の集まりではなく、どんな仕事でも一生懸命汗を流して働き、社員やその家族を大切に思い、そして何より親睦の大切さを理解する者の集まるクラブを築きたいとの思いであったとお聞きしております。

今、振り返れば明日にでも退会したいと思っていた自分が、未だ在籍しているのは先達が引いたこの源流が今日に於いてもクラブに脈々と引き継がれ流れているからだと思えます。

まだこの時点では仮想的なお話の域を超えることなど出来ませんが、万が一にも皆さんの応援でノミネーになりましても、私は先に申しあげました通り浅学非才な者ですから、皆さんが期待する斬新な活動提案など何一つとして思いつきません。

しかし、その私にも出来ることがあるとすれば、「ロータリーは質か量か？」といった愚問、愚答を断ち切り、それは先達が教えてくれた、どんな仕事でも一生懸命汗を流して働き、社員やその家族を大切に思い、そして何より親睦の大切さを理解する者なら諸手を広げて会員に迎えるよう、働き掛けを行うなら出来そうな気も致します。

ともあれ、どのような結果になろうとも、今、私がやるべきことは60歳代の手習いではありませんが、ロータリー会員の一年生となつて、一からロータリーを真摯に勉強したいと考えています。

正直申し上げ、在籍年数が長いだけでロータリーの核となる活動形態に関しましては、ほとんどと言ってよいほど知識がありません。

今後、ロータリーに精通しておられる会員からもいろいろとご教授いただき、学びたいと切に望んでいます。

「恩を受けたら、いつか感謝と共に恩は還せ」と教えられました。

「青柳！汗を流せ」「お前が一生懸命の汗を流すなら、我々も共に汗を流そう」と後押ししていただけるなら、先達やこれまでのクラブへの恩返しと考え、力不足ではありますが、一生懸命ロータリーの奉仕に努めたいと思います。

最後に一言付け加えさせていただきます。

若し、私目がノミネーに指名を受けましたら、それは我クラブが評価されたことであります。反対に指名されなかったら、それは私が評価されなかったことであります。

どのような事態になろうとも、今更引くわけにはいきません。道のりは少々長いようではありますが、我が神奈川東ロータリークラブの皆様が頼りであります。

変わらぬご支援、ご指導下さいませよう、お願い申し上げます。私の拙い現在の思いとご理解いただければ幸いです。

ありがとうございました。



クラブフォーラム 青柳会員をガバナーへ

青柳 紀



この度、浅学非才であり五体不満足な私のような者をガバナーノミネー候補者としてクラブ会員の皆様のご推薦していただきましたことに正直大変驚きました。

同時に、過大な期待も感じ取れ、このような重責が身分不相応であることは自ら一番よく承知しておりますだけに、今からその重圧に押し潰されそうな思いであります。

確かに私も、現在の活力に溢れた我がクラブから近い将来、有能なガバナーを輩出し、マンネリ化した地区活動に良い影響を及ぼす

国際ロータリー 第2590地区 地区大会

11月8日に国際ロータリー 第2590地区 地区大会が開催されました。



会場



張蕾さんのスピーチ



展示ブースにて



懇親会

2008-09年度 国際青少年交換学生 宮田莉佳さんからのマンスリーレポート

お久しぶりです お元気ですか？

またまたメールを書くのが遅くなってしまってすみません。

先週 (10月31日～11月2日) までロータリークラブのインターアクトのミーティングに参加してきました!!

ミーティングといっても皆で計画しているいろいろなことするというものです。

ハロウィンパーティや Festa de 60anos といって昔の洋服を着て昔の音楽で踊ったり、男の子は女の子の衣装を着て女の子は男の子の衣装を着るゲイ?パーティなど日本では経験することができないことを経験することが出来ました!! (笑)

この3日間は本当に沢山のひとと触れ合うことができました!

そしてなにより今自分がこうして留学出来ている幸せを感じました。

なぜならミーティングにはこれから留学したいという沢山の人がいて皆自分が他の国に行ったらこうしたい、それでこんな職業になりたいなど沢山の夢を持っていて私も改めて、自分の目標を見つめることが出来ました!!

本当に素敵な旅行になりました!!

そしてポルトガル語は難しいです。男性名詞 女性名詞...

今はあまり気にしなくて大丈夫と言われていますが1回悩むと本当に大変です (; ;)

1年しかない貴重な時間を大切にしたいと思います。頑張ります!!



次回《11月21日》の卓話予定

「アジアの人々が今考えすべきことは…」

～『サルボダヤ運動50年』の実績を踏まえて～

サルボダヤ運動創始者 アリヤラトネ博士